

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 28 年 7 月 21 日 (2016.7.21)

【公開番号】特開 2014-28941 (P2014-28941A)

【公開日】平成 26 年 2 月 13 日 (2014.2.13)

【年通号数】公開・登録公報 2014-008

【出願番号】特願 2013-133604 (P2013-133604)

【国際特許分類】

C 0 8 F 8/00 (2006.01)

C 0 8 F 10/00 (2006.01)

C 0 8 F 255/00 (2006.01)

C 0 8 L 23/26 (2006.01)

C 0 8 L 23/02 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 F 8/00

C 0 8 F 10/00

C 0 8 F 255/00

C 0 8 L 23/26

C 0 8 L 23/02

【手続補正書】

【提出日】平成 28 年 6 月 2 日 (2016.6.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ポリオレフィン (A)、不飽和 (ポリ) カルボン酸 (無水物) (B) およびエチレン性不飽和モノマー (C) をラジカル開始剤 (D) の存在下で反応させる変性ポリオレフィンの製造法において、下記の式 (1) および (2) を満足することを特徴とする変性ポリオレフィン (X) の製造法。

$$0 < r_b \times r_c < 1.0 \quad (1)$$

$$0 < r_c < 1.5 \quad (2)$$

[ 式 (1)、(2) 中、 $r_b$  は  $r_b = k_{bb} / k_{bc}$  で定義される (B) の反応性比、 $r_c$  は  $r_c = k_{cc} / k_{cb}$  で定義される (C) の反応性比； $k_{mn}$  ( $m$ 、 $n$  はそれぞれ  $b$  または  $c$  を表す) は成長反応速度定数であり、 $m$  は成長末端活性点のモノマー種、 $n$  は該活性点に付加するモノマー種をそれぞれ表す。すなわち、 $m$  が  $b$ 、 $n$  が  $c$  のときの  $k_{bc}$  は該活性点のモノマー (B) にモノマー (C) が付加するときの成長反応速度定数を表し、 $m$ 、 $n$  がその他の組合せの  $k_{mn}$  も同様に定義される成長反応速度定数を表す。]

【請求項 2】

(X) が、50 ~ 250 mg KOH / g の酸価を有する請求項 1 記載の製造法。

【請求項 3】

(X) が、(A) を幹、(B) もしくは (B) と (C) の (共) 重合体を枝とするグラフト共重合体である請求項 1 または 2 記載の製造法。

## 【請求項 4】

(A) が、炭素数 1,000 個当たり 0.1 ~ 20 個の二重結合を有する請求項 1 ~ 3 のいずれか記載の製造法。

## 【請求項 5】

(A) が、数平均分子量 30,000 ~ 400,000 のポリオレフィンの熱減成物である請求項 1 ~ 4 のいずれか記載の製造法。

## 【請求項 6】

(A) と (B) の重量比が、30 / 70 ~ 92 / 8 である請求項 1 ~ 5 のいずれか記載の製造法。

## 【請求項 7】

(A)、(B) および (C) の合計重量に基づく含有量が、(A) が 20 ~ 85 %、(B) が 8 ~ 45 %、(C) が 5 ~ 65 % である請求項 1 ~ 6 のいずれか記載の製造法。

## 【請求項 8】

請求項 1 ~ 7 のいずれか記載の製造法で得られる変性ポリオレフィン (X) を含有してなる樹脂改質剤 (K) の製造方法。

## 【請求項 9】

請求項 8 記載の製造方法で得られる改質剤 (K) とポリオレフィン樹脂 (E) を含有してなるポリオレフィン樹脂組成物の製造方法。

## 【請求項 10】

(K) と (E) の重量比が、10 / 90 ~ 40 / 60 である請求項 9 記載の組成物の製造方法。

## 【請求項 11】

請求項 9 または 10 記載の製造方法で得られる組成物を成形してなる成形品の製造方法。

## 【請求項 12】

請求項 11 記載の製造方法で得られる成形品に塗装および / または印刷を施してなる成形物品の製造方法。